

日本福祉介護情報学会ニュース

2011年度 第1号

2011年6月27日

発行：日本福祉介護情報学会

(<http://jissi.jp>)

埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学コミュニティ福祉学部
森本研究室内 jissi-mail@e-wel.ne.jp

【目次】

1.	第12回研究大会のご案内	1
2.	学習会ご案内	1
3.	2011年度学会計画・予算	2
4.	学会紀要「福祉情報研究」について	4
5.	福祉情報の動向：モバイルシニアネット	5
6.	事務局から	6
	(編集後記)	6

1. 第12回研究大会のご案内

日本福祉介護情報学会理事・第12回研究大会 事務局
(田園調布学園大学) 村井 祐一

第12回研究大会は、田園調布学園大学で開催させて頂く予定です。日時等は、以下のように決定しております。

日時：平成23年12月11日(日) 9時00分～17時30分

場所：田園調布学園大学 4号館4階(441, 442, 443, 444教室)

現在は、大会テーマの検討を行っていますが「東日本大震災から見えてきた福祉情報の課題」などが有力となっています。プログラムは、これまでに近いスタイルを踏襲し、午前中は自由研究発表、午後は講演やシンポジウムを予定しております。もちろん懇親会も予定しております。

研究大会の状況につきましては、会員メーリングリストでのご案内や本学会のホームページに随時掲載させて頂く予定です。

多くの皆様の自由研究発表とご参加をお待ちしております。

2. 学習会のご案内

日本福祉介護情報学会理事
(株式会社日立製作所) 前田 みゆき

現在、社会保障と税の番号制度について活発な議論がなされています。政府は、今年1月に取りまとめた番号制度についての基本方針に基づき、4月に「要綱」を公表。今後、6月には「大綱」を公表し、今秋以降可能な限り早期に「番号法案」を国会に提出する予定です。一方、この大綱の大前提となる「社会保障と税の一体改革」も、

現在政府にて活発に議論されています。

そこで今回の勉強会は、第1部で社会保障と税の一体改革全体について、第2部で社会保障・税番号制度について、という二部構成で企画しました。

まさに、これからの社会保障分野の方向性を決めるとも言われる旬のテーマを、それぞれの分野の取りまとめの先生に、わかりやすく解説していただきます。

会員の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

【テーマ】「社会保障・税番号制度について」

【日時】2011年9月4日(日) 14:00～16:30

【会場】大正大学(豊島区西巣鴨3-20-1:都営地下鉄三田線西巣鴨駅下車徒歩2分)
7号館3階731教室

大正大学のアクセスマップ http://www.tais.ac.jp/other/access_map/access_map.html
キャンパスマップ http://www.tais.ac.jp/other/campus_map/campus_map.html

【内容】第1部「社会保障と税の一体改革」(仮)

内閣官房社会保障改革担当室 室長 中村秀一氏

第2部「社会保障・税番号制度」(仮)

東京大学大学院情報学環 准教授 山本隆一氏

3. 2011年度学会計画・予算

日本福祉介護情報学会理事・事務局
(立教大学) 森本 佳樹

2011年度の学会計画・予算は、次の通りです。★は新規事業です。

1 学会の運営

(1) 会員総会の開催

年に1度、会員総会を実施する(第12回研究大会開催時)

(2) 理事会の開催

学会の運営を図るため、年に4回程度理事会を開催する

(3) 各種委員会活動の充実

学会の活動の基盤となる各種委員会活動の充実を図る

① 『福祉情報研究』編集委員会の充実

② ホームページ委員会の充実

③ ニュースレター編集委員会の充実

④ 「学習会」企画委員会の充実

★(4) 役員改選選挙の実施

第5期(2012年6月～2015年5月)役員体制に向けて、役員選挙を実施する

(5) 会員の拡大

① 人材と財源を安定確保し、活発な活動を保障するために、会員数の増加を図る

(6) 事務局機能の充実

① 会員ニーズに即応できる事務局体制を整備する

2 研究活動の推進

(1) 研究大会の開催

田園調布学園大学を会場として第12回研究大会を開催する

(2) 学習会の開催

時宜を得たテーマの下に、適宜、学習会を開催する

(3) 学会紀要『福祉情報研究』の発行

① 12月を目途に第7号(2009年度号)を発行する

★② 紀要編集体制の強化策を検討する

★(4) 「福祉情報化」に関する新たな研究会の設置

『福祉・介護の情報学』に続く、実践的福祉情報論に関する研究を行うため、委員会を設置する

3 広報活動の推進

(1) ホームページの安定的運営

① ホームページの機能の拡張を図り、安定した運営を行なう

② 適宜、新しい情報の更新を行う

③ 関連ホームページとのリンクを積極的に行う

④ 会員専用ページのあり方に関する検討

(2) ニュースレターの発行

年に2～3回、ニュースレターを発行する

★(3) 学会入会申込書の作成

4 他学会・研究団体との連携

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本医療情報学会等との連携を図る
日本福祉介護情報学会2011年度予算

《収入の部》

(単位：円)

項 目	今年度予算	前年度予算	比較増減	摘 要
1 入会金収入	40,000	140,000	△ 100,000	
1-1 正会員	30,000	30,000	0	@3,000×10人
1-2 学生会員	10,000	10,000	0	@2,000×5人
1-3 法人会員	0	100,000	△ 100,000	項目存置 (@100,000)
1-4 賛助会員	0	0	0	項目存置 (@3,000)
2 会費収入	645,000	760,000	△ 115,000	
2-1 正会員	600,000	600,000	0	@6,000×100人
2-2 学生会員	45,000	60,000	△ 15,000	@3,000×15人
2-3 法人会員	0	100,000	△ 100,000	項目存置 (@100,000)
2-4 賛助会員	0	0	0	項目存置 (@30,000)
3 参加費収入	60,000	60,000	0	
3-1 参加費収入	60,000	60,000	0	研究会等@2,000×30人
4 雑収入	7,000	7,000	0	
4-1 雑収入	7,000	7,000	0	預金利子等
5 繰越金	4,677,000	4,458,000	219,000	2009年度決算見込額
5-1 基本財産繰越金収入	1,177,000	1,158,000	19,000	
5-2 前年度繰越金収入	3,500,000	3,300,000	200,000	
合計	5,429,000	5,425,000	4,000	

《支出の部》

項 目	今年度予算	前年度予算	比較増減	摘 要
1 事業費	1,300,000	1,470,000	△ 170,000	
1-1 理事会開催費	350,000	350,000	0	3回分(×3人)旅費等 実勢
1-2 研究大会助成費	350,000	350,000	0	開催校助成
1-3 委員会費	150,000	160,000	△ 10,000	研究活動費用
1-4 紀要発行費	200,000	360,000	△ 160,000	通常号
1-5 学習会開催費	100,000	100,000	0	謝礼・資料印刷等
1-6 広報活動費	150,000	150,000	0	広報活動費用
2 事務費	240,000	240,000	0	
2-1 什器・備品費	20,000	20,000	0	事務用品等
2-2 印刷費	50,000	70,000	△ 20,000	学会案内作成
2-3 通信費	150,000	120,000	30,000	ニューズレター・郵送・選挙等
2-4 事務補助員費	20,000	30,000	△ 10,000	学生バイト費
3 繰越金	1,217,000	1,298,000	△ 81,000	
3-1 基本財産繰越金	1,217,000	1,298,000	△ 81,000	入会金及び入会金繰越 充当
3-2 次年度繰越金	0	0	0	(決算処理科目)
4 予備費	2,672,000	2,417,000	255,000	
合計	5,429,000	5,425,000	4,000	

4. 学会紀要「福祉情報研究」について

日本福祉介護情報学会理事・学会誌編集委員会
 (関西学院大学) 生田 正幸
 (北翔大学) 林 恭裕
 (全国社会福祉協議会) 古田 清美

諸般の事情で刊行が遅れ、執筆者各位はもちろんこと、会員の皆様にも、たいへんご迷惑をおかけしておりますことを、深くお詫びいたします。

経費節減のため、編集作業をすべて編集委員が行っていることもあり、作業に大幅な遅れが生じています。作業のスピードアップに努め、編集の外注などの検討も進めております。何とぞ御寛恕賜り、今しばらくお待ちください。

(1) 第6号・第7号

現在編集中です。もう少し、お待ちください。

(2) 研究大会臨時増刊号

2010年12月12日に関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されました第11回研究大会におけるシンポジウム「福祉・介護の実践としての情報の活用 ―高齢者介護サービスの効率化と安定化―」を中心とした研究大会臨時増刊号を8月に刊行予定です。

5. 福祉情報の動向：モバイルシニアネット

日本福祉介護情報学会 会員
(駿河台大学) 平野 貴大

モバイルシニアネットプロジェクトは、高齢者の社会参加を支援するために携帯電話講習会を通じ、支援する高齢者と支援が必要な高齢者との温かいつながりをつくる取り組みです。2005年から老テク研究会が中心となって行ってきたこの取り組みを、NPO法人コミュニティリンクが、2010年度、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の助成を受け実施しました。

初級・中級・上級に分けた独自のテキストを作成し、高齢者パソコン講習の実績がある首都圏や関西の7つのNPOと民間のPC教室で携帯電話活用教室を実施しました。半年で約700名が参加し、web上で公開した「楽しいケータイ活用術」は約5,000件ダウンロードされました。

3月3日には、活動報告として「モバイルシニアネットシンポジウム&電脳ひな祭り2011」(実行委員長：安田浩東京電機大学教授)が東京大学安田講堂で開催され、約400名が参加しました。筆者は基調講演の東京大学高齢社会総合研究機構の辻井哲夫教授と、大島眞理子氏(老テク研究会代表)と大島氏が介護する父親との映像交流の技術支援を実施しました。大島氏は「自宅で介護をしながら、講演を聞き、シンポジウムにも参加できて、父も私にもすばらしい体験です。」と喜んでいました。

事例報告では、講習会を実施したシニアSOHO三鷹や、あびこ・シニア・ライフネット等のNPO団体と、支援企業や行政の担当者も登壇し、「(携帯電話教室に)これほどのニーズがあるのは意外だった」「iPadなどのタブレット端末は高齢者に最適」等の紹介がありました。

パネル討論「シニアの社会参加を支援する情報機器・サービスとは」では、本学会代表理事の高橋紘士先生がコーディネーターを担当されました。パネリストのNTTドコモの山口文久氏、富士通の大橋慎太郎氏は、高齢者をターゲットにした情報通信端末は今後、ますます重要になると発言。メロウ倶楽部の若宮正子氏からは、デジタルデバイドが進み、情報を得られず世間からも孤立してしまう『世の中デバイド』の危険性の提起や亡くなる間際までメロウ倶楽部の掲示板に書き込みをした会員のエピソードの紹介があり、参加者の関心を集めました。また、コメンテーターの、高齢社会をよくする女性の会の樋口恵子氏と総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課長の谷脇康彦氏からも、高齢者の情報通信機器を使った社会参加とそのための環境整備が必要との発言がありました。

シンポジウム後、3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、プロジェクトに参加したNPO団体は災害時に役立つICT講習会などを実施し、被災した仙台市のシニアネットを支援しようと募金活動を行っています。

多くの情報が錯綜する中で、誰にでも容易に情報収集・発信できるための環境をソフト・ハードの両面から作り上げて行くことが、これからの福祉情報の分野でも求められるのではないのでしょうか。

6. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局
(東京都社会福祉協議会) 須永 誠

ニュースレター本号に同封して、本年度会費等の請求書類をお送りいたしました。
早めのご入金をお願いいたします。

なお、これに伴って「領収書」が必要な方は、学会事務局あてにメールでご一報ください。今回の送付先あてに郵送いたします。

また、年度末・年度初めで、ご所属等に変更が生じている会員におかれては、事務局あてにお早めにお知らせください。

■会員加入状況 (2011年5月末日現在)

正会員 116名 / 学生会員 21名 / 名誉会員 1名

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

(編集後記)

東北関東大震災において罹災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲者の方々に心より哀悼の意を表します。

被災地にある公立大学の教員として、被災された方々の生活を支援するための情報のあり方について様々に悩み、考えさせられる三ヶ月間でした。

復興は長期戦であり、復興を支援する研究は緒に就いたばかりです。会員の皆様には様々なご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

日本福祉介護情報学会理事・ニュースレター担当
(岩手県立大学) 小川 晃子